

2020 読書メモ 8月号

—歴史的大変革「コロナ・ショック」の時代をどう読解するか—

細谷功著『地頭力を鍛える』

(東洋経済新報社・2019年)

やなぎさわかつひろ

柳沢克央 (信州・上田仮説サークル)

2020年8月22日(土), 8月例会用レポート

○はじめに…新疾病はどうもうさんくさいぞ…、少なくともテレビ、新聞にとらわれてしまうと危険だぞ…そう気づいている人たちが少しずつ増えている実感を持っています。とはいえ、何が真実か、分かっている人は一人もいないでしょう。ただ、真の感染者と、検査の結果「陽性」と判定された人の数は全く異なることは間違いありません。

ファクターXの解明、ワクチンの開発、優先順位…、まだ落ち着いていない現状です。そのようなこととは無関係に読める本をきょうも手にしてすき間時間に楽しみながら読み進める今日この頃です。

コロナ後にも全く何の問題もなく読める本と残念ながら「時代遅れ」になってしまう本にハッキリと分かれるのではないかと予想します。…ということは、学問の成果も、そして、学校の価値も、そこで学ぶ内容も、その価値も…いずれ、そのように拡散していくのではないのでしょうか。読書の意義を考えつつ、一歩ずつ進んでいこうと思っております。敬白

○今月までに読んだ本 (順不同)

◆細谷功著『入門・地頭力を鍛える—32のキーワードで学ぶ思考法—』(東洋経済新報社・2019年)

読みやすい。役に立つ。抽象的思考と具体的思考の往復が大切であることを再確認。見出しを撃って復習する。

戦略的思考・ロジカルシンキング・仮説思考・フレームワーク・具体と抽象・

「なぜ？」・二項対立・因果と相関・演繹と帰納・発散と収束・論理と直観・川上と川下・ファクトベース・MECE（漏れなくダブリなく）・ロジックツリー・2X2 マトリックス・フェルミ推定・地頭力・問題発見と問題解決・AI（人工知能）・ビジネスモデル・多様性・未来予測・無知の知・知的好奇心・能動性・常識の打破・「疑う」こと・認知バイアス・メタ認知

以上、打ってみて気づくことは、ほとんどが古典に書かれていることであって、細谷氏のオリジナルな要素はごくごく現代的な部分に書かれているに過ぎないということである。具体的には古代ギリシャ哲学、中国の古典、デカルト、ベーコン、カント、ヘーゲル等がベースになって構成されているということである。

これらの古典に現代的な息吹を吹き込んで実用書として手際よくまとめる力量は本当に素晴らしい。繰り返して精読するに相応しい良書である。著者は他にも10冊ほどの力作を著しているのだから、これらについても繰り返して読み、板倉式発想ほうと同様、体得するつもりである。

◆ユヴァル・ノア・ハラリ著『ホモ・デウス』（上・下）（河出書房新社・2018年）

本書の結論は下巻の最後に書かれていることに気づいた。この部分を引用しておく。「ネタバレ」が嫌な方はこの部分を読まないように飛ばして下さい。

○科学は一つの包括的な教義に収斂しつつある。それは、生き物はアルゴリズムであり、生命はデータ処理であるという教義だ。

○知能は意識から分離しつつある。

○意識を持たないものの高度な知能を備えたアルゴリズムは間もなく、私たちが自分自身を知るよりもよく私たちのことを知るようになるかもしれない。

この三つの動きは、次の三つの重要な問を提起する。本書を読み終わったあともずっと、それがみなさんの頭に残り続けることを願っている。

○生き物は本当にアルゴリズムにすぎないのか？　そして、生命は本当にデータ処理に過ぎないのか。

○知能と意識のどちらのほうが価値があるのか。

○意識を持たないものの高度な知能を備えたアルゴリズムが、私たちが自分自身を知るよりもよく私たちのことを知るようになったとき、社会や政治や日常生活はどうなるのか。（下巻 246 ペ）

メモ以上

以下， 8 月例会予定資料リスト

1. 板倉科学論スケッチ「科学，それは大いなる空想をともなう仮説とともに生まれ…」
2. マッキーノ論パワーポイント
3. 牧野英一さんのオンライン・マッキーノ動画
4. 高田明氏の「世阿弥」論（学校に届いているロータリー会誌より）
5. 日経コロナ論 8 月 19 日（水）記事抜き刷り
6. 大島まり氏講演記録 SSH フォーラム（20200205 サントミュージゼ）
7. 文部科学省への「惜別の辞」（投稿フォームへ入力したもの）
8. ナイチンゲールとデータ・サイエンス論（20200731 信毎）
9. 中一夫さん「講演記録の作り方」
10. 中一夫さん「サークルでのレポート検討の方法」
11. 中村文さん（福岡・小学校）の授業記録マンガ「もしも原子が見えたなら」

リスト， 以上